

# 子宮頸がんは、ワクチンの接種と検診で ほぼ100%予防できる唯一のがんです。

## 20歳から30歳代の若い女性に増えています

最近、20～30歳代の若い女性に急増している「子宮頸がん」。子宮がんは、子宮の入り口にできる「子宮頸がん」と、子宮の奥にできる「子宮体がん」に分けられます。

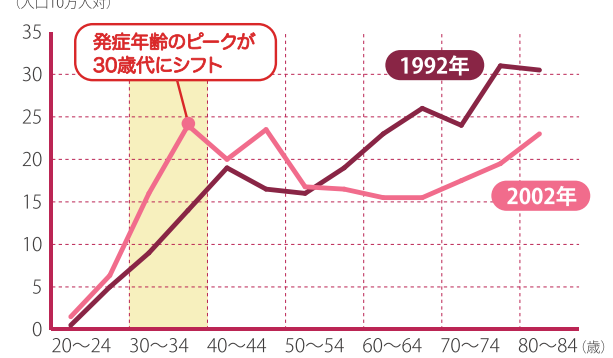
閉経前後の女性に発症することが多い子宮体がんに対して、子宮頸がんは、20～80歳以上まで幅広い年齢層の女性にみられます。国内では、年間約15,000人が子宮頸がんを発症し、約3,500人の大切な命が失われています。

## 誰もがかかる可能性があります

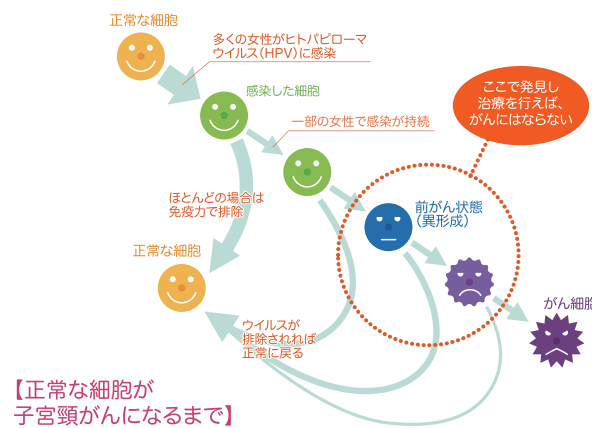
主な原因はHPV(ヒトパピローマウイルス)というウイルス。ほとんどの女性が一生に一度は感染するといわれています。感染は一時的で、免疫力でウイルスは自然に消えてしましますが、まれに感染が長く続き、がんに行進する場合があります。

子宮頸がんは、HPVに感染してから約10年かけてがん細胞に変化する場合があるといわれ、定期的に検診を受けていれば、がんになる前に発見でき、早期治療でほぼ100%治すことができます。

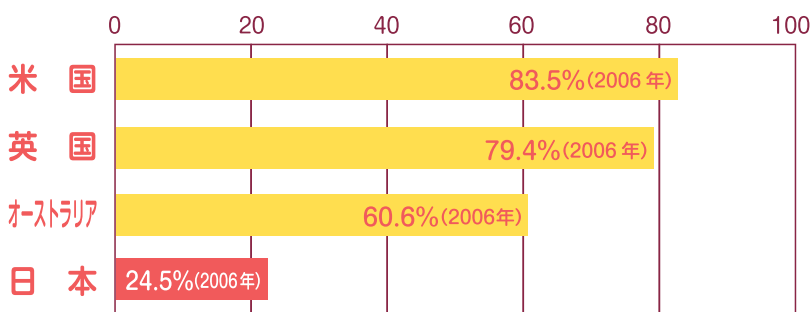
【子宮頸がん発症の年齢による変化】



出典: 国立がんセンターがん対策情報センター



## 子宮頸がん検診受診率の比較



※受診率の比較は OECD Health Data 2009

## 予防ワクチンの効果を十分に得るには 3回の接種が必要です。

子宮頸がんの原因であるヒトパピローマウイルスのうち、リスクの高い16型と18型に対するワクチンが、昨年10月に公明党の推進で承認されました。ワクチンは筋肉注射で、初回から1ヵ月後に2回目、半年後に3回目と、半年間に3回の接種が必要です。抗体は20年間は効果が持続するといわれています。

また、ワクチン接種後も子宮頸がん検診を定期的に受診することが重要です。



## すべての女性の元気を 応援します！

### ＊女性特有のがん無料クーポン券配布の継続

政府は女性特有のがん無料クーポン券配布事業の予算を大幅に削減しましたが、区議会公明党は継続を強く要望し、江戸川区では22年度も継続となりました。

対象年齢 乳がん(40、45、50、55、60才) マンモグラフィー  
子宮頸がん(20、25、30、35、40才)  
平成22年4月1日時点の年齢

### ＊「不妊治療」への助成を拡充

不妊治療への助成金の支給期間を、通算2年から5年に延長。支給額も「1回15万円を年2回まで」に拡充しました。

### ＊「女性専門(用)外来」の設置を推進

女性の医師やスタッフが中心で女性特有の心身の症状に細やかに対応する「女性専門(用)外来」の設置を提唱。民間病院も含め、全国で着実に拡大しています。

## 対象年齢は女子中学生全員と20歳の女性

10代前半がワクチンの予防効果が一番高いとされているため、中学生を対象年齢としました。女子中学生全員に全額補助は都内初です。

また、20歳女性への半額助成については、20歳から子宮頸がん検診を無料で受診できることから、ワクチン接種と検診のセットで「子宮頸がんを100%予防する」との啓発も含め、子宮頸がんで大変な命を失うことのないようにとの願いからです。

また、公明党は国において、子宮頸がんワクチンを定期接種化し、全ての女子が一生に一度接種できるように、今後も要望してまいります。

## がん検診を受けましょう！

江戸川区では国保・社保の別なく全ての区民が無料で受診できます。

子宮頸がん 20才以上(2年に1回) 区内指定産婦人科  
乳がん 30才以上(年1回 超音波)  
江戸川区医師会医療検査センター 要予約  
TEL. 5676-8818